

しれません。なぜなら江戸時代から明治時代に掛けて近代化を推し進めるに当たり「薩長上肥」に始まり、「七帝国大学」「第一高等学校」「第七高等学校」など、必ず一つの集団を作って、言い替えると必ず「群れを作る」という事で、ある程度の問題は、今迄は解決できてきたと思うのです。しかし、この事が残した「負の習慣」とでも言いますか、良く海外で言われる「日本人は、すぐ群れたがる」と言う批判の原因の源はこんな所にあるのかも知れません。感傷的、回顧的雰囲気は日本に残存する歴史的幼児性の一つではないかと小生は考えるのです。この「根」の様なものは、未だ「醒めた成熟した自立思考」をできないでいる今の日本の原因と何か重なってしまっています。今の所我々は学内では新入生歓迎会と卒業送別会だけをしています。今のところ我々支部の皆は大体において、福岡大学人としての意識を主体にして、しっかりと、自立した思考回路が、仲間の頭脳の中でゆっくりと成熟して行っている印象が感じられ、小生の誇りに思う事の一つです。どこぞやの回顧的な高校生気分、言い替えるならば「生徒」的思考から、「学生」的思考に抜け出せないでいるお坊っちゃん、お嬢ちゃん的思考行動が無い事は、実に良い事だと思っています。医学部支部として大塚同窓会の中で「何が出来るのか」、「何をすべきなのか」、「大学の中で高校同窓の意味はなんなのか、何が出来るのか」、を深く考える時期に来ているのではないかと思えます。

(第十五回卒 高木忠博)

卒業生回顧録

関西支部 岡田 博(第一回生)

一、大塚との出会い

大塚中学、大塚高校といずれも第一回卒業で、卒業後も、関西支部や東海支部と長くかわつてますが、そもそも大塚との出会いは私にとって単純なもので、勉強が好きで大塚へという訳ではありませんでした。

昭和二十二年に新制中学となり、昭和二十三年の入学は新制中学制度の二回生になりました。どこも、仮校舎で大塚中学校の校舎も、地元の中学校も似足り寄つたりでした。

私の大塚中学入学のきっかけは、小学校四年生(終戦の年)の五月に三宅小学校に転校したのですが、三日目の学校の帰りにケンカしたことが(今で言えはいじめだったのか)、いつまでも癒りが残り、大塚中学が出来るという事で飛びつき、男児でただ一人私学へ進学することにしました。地元のPTA会長や先生方も地元の中学校へ行きなさいと、説得のために来られました。三宅中学に行く位なら働く。」とか言つて夕夕をこね、頑固に大塚を目指したお陰で、母から、「それなら毎日、薬院から電車に乗らず歩くという誓約書を書け。」と言われての入学でした。ですから、中学時代は薬院から歩いて通学しました。入学願書も自分で取りに行き、試験の日も一人、他校の子供が先生に、出来映えを報告しているのを横で見て寂しい気持ちを持ったものです。しかし、それ程まで入学した大塚中学でしたが、勉強が目的の入学

ではなかったため、特に一年の時は余り勉強しませんでした。

二、同窓会関西支部の設立

①一回の関西支部設立の失敗

大塚高校卒業後関西大学を卒業、そのまま大阪にて就職、仕事に無我夢中で、大塚のことは全く忘れていました。ところが、昭和三十一年、大塚高校が全国高校駅伝に出場すると聞き、全く信じられませんでした。新聞社に電話して選手の宿泊場所を尋ねると阿倍野の英華園の旅館とのこと。ミカン箱を持って訪ね、大塚先生に初めて会いました。何しろ、初出場、初優勝で、金岡公園、ドンズルボウの急坂で藤田を応援しました。そこで何人かの校友にも逢い、同窓会を作ろうと提案、僅か二十人くらい住所が分つたと思います

が、一生懸命電話で連絡を取り、大阪の南区の活兵衛という料理屋で、第一回の同窓会をしたのですが、五、六人しか集まらず、料理屋ではしかられ、さんざんな目にあいました。今、思うと三十才前で若かつたこと、皆んな故郷を離れ、仕事に夢中で同窓会は無理だったのでしょう。兎事な失敗に終わりました。以来、十年近く、博多にも行かず、高校がどうなっているか全く知らず、中学校がなくなつたことも、高校の商学科がなくなっていることも知りませんでした。

②二回目の関西支部の設立

高校野球で初めて甲子園出場を果たした昭

和五十六年、嬉しくて、甲子園にかけつけました。入場前、スタンドで色々な校友と出逢いました。その時、やはり第一回卒業で親友だった藤野誠君がいて、同窓会を作ろうという事になりました。何回かの打合せで、現在の同窓会が誕生したと思えますが、藤野君と兩里君(七回生)等の活躍で総会開催に至りました。第一回の失敗話から、私が初代の関西支部長になつたと思えます。以来、一回生藤野君、七回生重本君と引継ぎ現在に至っています。私の提案で、二ヶ月に一回でも「大塚サロン会」として、集合をかけることも、自然に集まる場所と時を決めてはどうかと提案して出来たのが、今でも、偶数月の第一土曜日に実施中のホテルコンソルトのスナックでの大塚サロン会です。これは良かったと思つています。総会の時に初めましてではなく、仕事と関係なく故郷や、大塚を語り合える場所として成功だつたと思えます。

三、同窓会東海支部の設立

私ごとで恐縮ですが、日産プリンス大阪の専務をしていた平成六年、日産プリンス名古屋が合併して行く行かないので、社長として再建して欲しいと言われて、初めての地、名古屋に移転しました。

その移転にあたり、挨拶状を、以前甲子園の野球応援で名刺を交わした名古屋在住の四回生の南郷君にも出しておいた所、何ヶ月かたつた時、突然電話があり、今日、福岡県人会があるので来て下さいと言われ、行くと、三回生の藤崎君も来ていて、一回生の先輩と共に、同窓会を作ろうという話になりました。皆で一生懸命連絡を取り合い、平成七年十一月、やっと東海支部の総会にこぎつけました。